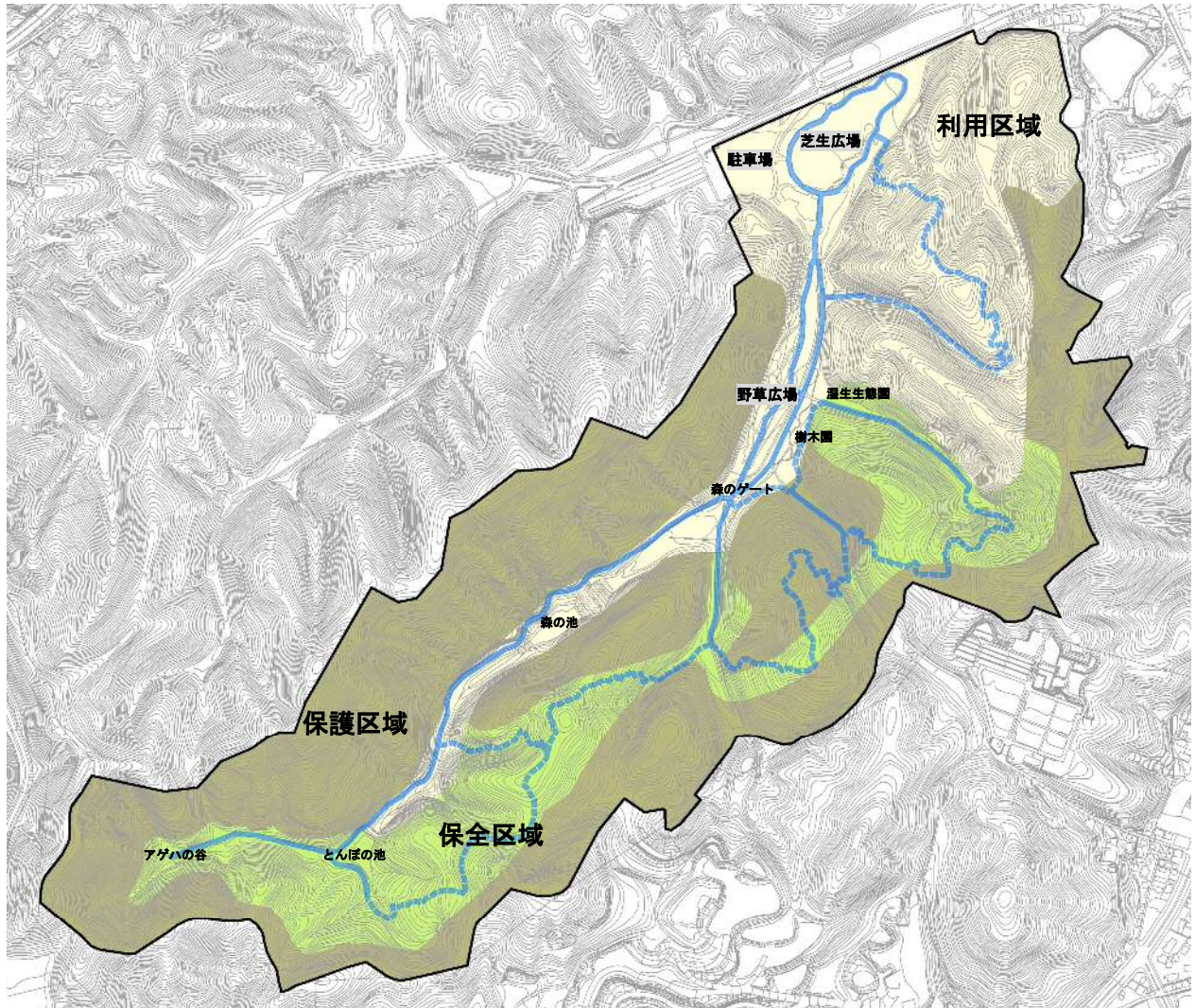


環境局による山田緑地の環境保護の取り組みについて

1 山田緑地の区域区分図



- | | |
|---|---------------------------------------|
| □ | 利用区域 (約 40ha) : 人々が自然と接し、親しむために利用する区域 |
| ■ | 保全区域 (約 30ha) : 現植生を維持する区域 |
| ■ | 保護区域 (約 70ha) : 現植生を極相林に遷移させてゆく区域 |

2 第2次北九州市生物多様性戦略における山田緑地での取組み

第2次北九州市生物多様性戦略

基本理念

都市と自然との共生 ～豊かな自然の恵みを活用し 自然と共生するまち～

基本目標4

人と自然との関係を見直し、自然から多くの恵みを感じることができる状態の維持

この中で、山田緑地等のふれあいの場の整備を進めるとともに、さらに子供たちの環境学習や地域の環境保全活動の場として活用されるよう努めることとしている。

<山田緑地の整備・30世紀の森づくり（小倉北区）>

山田緑地は、かつて山田弾薬庫として使用され、約半世紀にわたり一般の人々の手が加えられていない自然の残る森でした。その一部を広く市民に開放させることが決まり、その時点で生き物調査が実施され、北部九州で生息する生き物がワンセット生息していることが確認されました。そして、「30世紀の森づくり」を基本理念として、貴重な自然を守り育てていく公園づくりを目指して整備し、開園後20年が経過しました。

公園の特色としては、森の自然に触れ、体験しながら観察することができる利用区域と環境保護を優先する保護・保全区域3つに区域分けをして、生き物や森の観察などの学習研究活動や自然環境をテーマとした市民交流活動など、多種多様な取り組みを実施しています。また、開園後20年を経過した現状を把握するため、市民ボランティアと専門家による生き物調査を行うなど、新たな取り組みも進めています。

30世紀（千年）の森を見守る調査では、自然林への移行の状況を把握するための調査エリア（実験場）を設定し、指標種となるタブノキやシイノキ類の出現状況などの調査を行っています。また、哺乳類の定点カメラでは、いきいきとしたタヌキやノウサギ、テンなどの姿をとらえました。その他、鳥類や昆虫類などを含めて生き物調査を進め、山田緑地が都心に近接して優れた自然を有していることや、生態系ネットワークの中心となっていることが分かりました。

（「第2次北九州市生物多様性戦略」抜粋）